

## 自治体意見交換会の開催報告

### 1. 開催概要

自治体が一堂に会してリスクコミュニケーションに関する情報を交換する場が少ない現状を踏まえ、今年度は、大賞選考会・表彰式に先立ち、自治体意見交換会を開催しました。7都県3市から17名が集まり、PRTR特別賞を受賞した2自治体（神奈川県、埼玉県）の先進的なリスクコミュニケーションの取組事例の発表をもとに、参加者全員で各地域の課題や今後の方向性について話し合われました。

#### 自治体意見交換会の概要

日 時：平成20年2月1日（金）10:30～12:00

会 場：東京グリーンパレス

参加者：特別賞受賞者5名、その他12名、事務局4名

プログラム：

- ・神奈川県の講演
- ・埼玉県の講演
- ・フリーディスカッション



神奈川県の発表



埼玉県の発表

### 2. 意見交換の内容

フリーディスカッションでは、リスクコミュニケーションの課題等についての情報が共有されました。具体的には、「リスクコミュニケーションを実施する際には、都道府県と市町村が役割分担などについて調整することや、自治体が企業の関連団体・市民とうまく協調すること、中小企業への支援」があげられました。中小企業の支援としては、「例えば工場団地内や地域内の複数の企業との合同開催が有効」という提案などがありました。



意見交換の様子

意見交換会で得られたリスクコミュニケーションを推進していく上での課題

<p>&lt;モデル事業実施中の自治体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業が実施するリスコミへの支援のあり方</li> <li>・ リスコミの水平展開の促進（大企業は自主的に実施し、自治体は間接的に支援）</li> <li>・ 市町村や関連団体との協力・連携</li> <li>・ 地域住民とリスコミの核になる市民団体との連携のあり方</li> <li>・ 住民への化学物質やリスコミに係る教育</li> <li>・ 地域の環境リスクを考えるリスコミを実施することによる影響（各事業者がそれぞれ住民とリスコミを実施していた地域に自治体が介入することについて）</li> </ul>
<p>&lt;モデル事業未実施の自治体&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者の協力（啓蒙活動）</li> <li>・ 住民の化学物質への関心（啓蒙活動）</li> <li>・ 中小企業が実施するリスコミへの支援のあり方</li> <li>・ 化学物質の環境リスクにとらわれないリスコミのあり方</li> </ul>

### 3. リスクコミュニケーションに関するアンケート

当会の終了後には、アンケート調査を実施しました。集計結果の概要を以下に示します。

#### 1) リスコミの参加経験・企画経験

属性	回答数	リスコミへの参加経験		リスコミへの企画経験	
		あり	なし	あり	なし
都道府県	6	3	3	4	2
政令指定都市	3	1	2	1	2
合計	9	4	5	5	4

企画段階で困ったこと・感想（n=5、複数回答）

・ 企業の協力が得にくかった	3件
・ どのような段取りで企画すればよいのか情報が少なかった	2件
・ 市民の参加者が集まりにくかった	2件
・ 化学物質に関する情報を企業と市民で共有する方法が分からなかった	2件
・ 企業や住民への働きかけ方が分からなかった	1件
・ 中立的な立場から科学的な説明をしてくれる人の存在が重要と感じた	1件
・ 中立的な立場から企画や進行に携わってくれる人の存在が重要と感じた	1件

#### 2) コミュニケーション活動の必要性

項目	属性		合計
	都道府県	政令市	
日頃から定期的実施すべき	5	2	7
必要な時に必要な企業が実施すればよい	1	1	2

コミュニケーション活動は必要ない	0	0	0
合 計	6	3	9

### 3) 企業と地域住民がコミュニケーションを行う意義

項 目	属 性		合 計
	都道府県	政令市	
企業活動を地域全体が把握するため	6	2	8
地域社会の環境保全のための協力体制を築くため	3	3	6
事故や災害時の対応を確認しておくため	2	1	3
お祭りや美化清掃活動などに協力してもらうため	0	0	0
その他	2	0	2
合 計	6	3	9

その他の回答

- ・ 地域との共存、共栄、地域との信頼関係の構築
- ・ 企業も地域の一員であり、共存していく上で相互理解が必要

### 4) 化学物質の環境リスクをテーマとしたリスコミに対する考え

項 目	属 性		合 計
	都道府県	政令市	
環境全般がテーマであり化学物質はその一部	3	0	3
化学物質は保安・防災と併せてテーマにすべき	1	1	2
環境より住民の関心が高いテーマを優先すべき	1	0	1
化学物質は独立したテーマとして扱うべき	0	1	1
問題がなければ化学物質を取り上げる必要はない	0	0	0
その他	1	1	2
合 計	6	3	9

その他の回答

- ・ 化学物質の環境リスクにテーマを限定すると市民・事業者の方々の関心が得られにくい。今後の課題の一つである。

### 5) リスクコミュニケーションについての意見・提案（回答数 3、いずれも都道府県）

<意見>

- ・ 化学物質の環境リスクをテーマとしたリスコミの実施が可能なのは、県内で数事業所である。まずは、事業所が地域と信頼関係を構築することが重要であり、必ずしも化学物質にとらわれる必要はない。
- ・ リスコミを進めるにあたり、化学物質管理に対する市民の理解のレベル、興味レベルを上げておく必要がある。
- ・ 化学物質に特化したリスコミはまだ根付いていないのが現状。
- ・ リスコミの浸透には、関係各者がそれぞれの意識を高め、目的を正しく理解する必要があるため、急がず確実な実施に向けて土壌をしっかりと作ることが望ましい。

- ・ 企業と住民のコミュニケーションが継続することで、スパイラルアップすることを期待している。
- ・ 「化学物質リスクコミュニケーション」とすると、事業者が拒否反応を示すこともあるので、化学物質の内容に限定するのではなくその他の環境に関することも含めた「環境コミュニケーション」としてアプローチしたほうが取っ付きやすいのではないか。
- ・ リスコミの普及に当たっては、底辺の拡大とともに既に実施している事業所にはレベルアップが必要である。

6) リスコミを実施する上で不足していること (n=7)

項 目	属性		合計
	都道府県	政令市	
インタープリター（化学物質や環境リスクについて）	1	1	2
ファシリテーター（中立的な進行役）	2	1	3
環境リスク評価者（リスク評価を実施してくれる人）	1	1	2
コーディネーター（具体的な企画方法のアドバイザー）	2	0	2
説明や理解が科学的に正しいかどうか判断する人	1	0	1
リスクコミュニケーションの企画・運営に係る情報	2	0	2
化学物質の拡散や影響予測に関する手法及び関連情報	1	0	1
県や市町村からの予算面での支援	0	0	0
県や市町村からのリスコミ実施に係る情報面での支援	0	1	1
業界団体からのリスコミ実施に係る情報面での支援	1	1	2
その他	3	1	4
回 答 数	5	2	7

その他の回答 (n=4)

- ・ 市民や事業者の意識の向上と理解の促進。
- ・ 事業者の積極的な情報公開と住民の化学物質に対する意識。
- ・ 「リスク」という考え方の浸透。
- ・ 事業者のリスコミに対する理解と住民の関心。
- ・ リスコミ（目的や実施の意義等）に対する行政機関の理解（県、市町村）。